



JICA研究所  
プロジェクト・ヒストリー・ミュージアム  
JICA Project History Museum

# インド二化性養蚕技術協力

## プロジェクトの紹介

国際協力機構

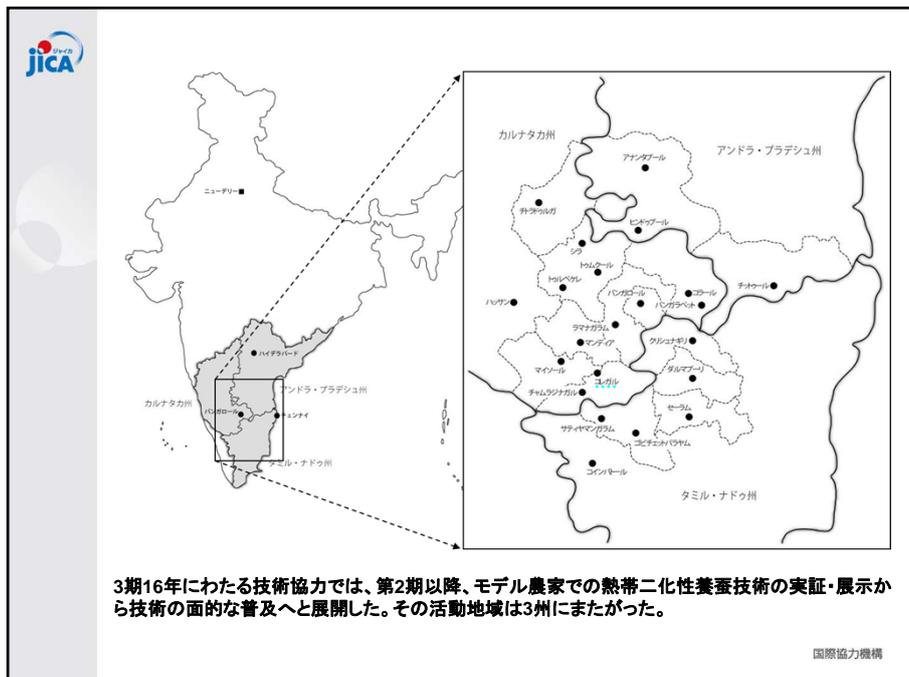
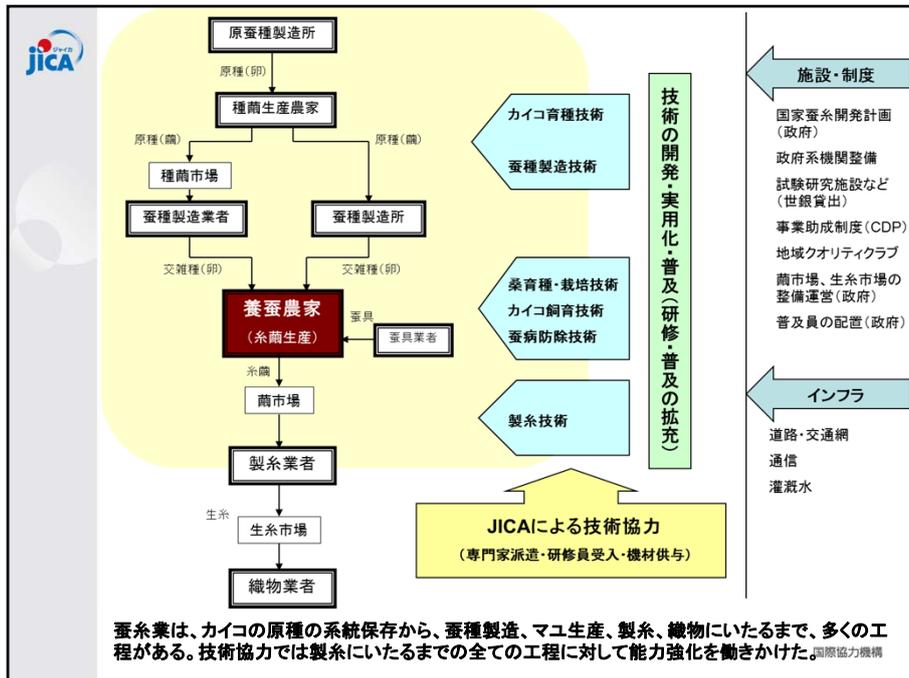
図表2 カイコの一生



この図表は、カイコの一生のライフサイクルを示しています。中心には「繭室 (25日)」があり、そこから各段階へと分岐しています。幼虫期には「一齡 (4日)」、「二齡 (3日)」、「三齡 (4日)」、「四齡 (6日)」、「五齡 (8日)」とあり、各段階で「食桑」と「脱皮」のサイクルを繰り返します。繭室形成後は「上座 (6日)」、「脱皮 (4日)」、「取繭・出荷 (4日)」、「脱皮 (5日)」の工程があります。最終的に「成虫」になり、「交尾産卵」を行い、「産卵」して「卵」を産みます。卵からは「孵卵」を経て「幼虫」が生まれ、再び「飼育」の工程に入ります。また、「飼育保護 (10~12日)」という工程も示されています。製糸業者と蚕種製造業者の関与も示されています。

出典：国際協力事業団「インド養蚕開発計画長期調査員報告書」1990年1月

カイコのライフサイクルを示した。孵化からマユ出荷まではおおよそ40日かかる。プロジェクト開始前、南インドではこの工程が1件の農家の中で行われていたが、その後、新しいカイコ品種の開発により、稚蚕共同飼育や品種保存、蚕種製造は別途行われるようになり、マユ生産農家が飼育に従事する期間は30日程度になっていった。



	第1期(1991~1996年) 【技術開発】	第2期(1997~2002年) 【技術の実用化・実証展示】	第3期(2002~2007年) 【普及の拡充】
プロジェクト実施、モニタリング	●機織省中央蚕糸局(CSB) (プロジェクトモニタリング班) *バンガロール	●機織省中央蚕糸局(CSB) (プロジェクトモニタリング班) *バンガロール	●機織省中央蚕糸局(CSB) (二化性養蚕対策室(BVC)) *バンガロール
州別の普及拡充		州政府養蚕局(DOS)	●州政府養蚕局(DOS) 二化性養蚕対策室(BVC)
蚕種製造技術	蚕種技術ラボ(SSTL) *バンガロール	蚕種技術ラボ(SSTL) 国家蚕種製造計画部(NSSP) *バンガロール	蚕種技術ラボ(SSTL) 国家蚕種製造機関(NSSO) (州)原蚕種飼育所 (州)蚕種製造所
カイコ育種技術	中央蚕糸研究訓練所(CSR&TI) *マイソール	中央蚕糸研究訓練所(CSR&TI) *マイソール (州)技術普及センター(TSC)	中央蚕糸研究訓練所(CSR&TI) *マイソール (州)技術普及センター(TSC) (州)養蚕研修学校(STS)
桑育種・栽培技術			
カイコ飼育技術			
蚕病防除技術			
製糸技術	中央製糸技術研究所(CSTRI) *バンガロール	中央製糸技術研究所(CSTRI) *バンガロール	中央製糸技術研究所(CSTRI) (州)製糸業者研修センター

プロジェクトに関係したインド側のカウンターパート機関と施設の変遷を見た。●印はプロジェクトの実施機関。太字は日本人専門家の活動拠点となった施設である。中央政府から、州政府へと関係機関が広がりをを見せている様子が窺える。

国際協力機構

